

1. 神様の舞台 (1)

イスラエルの大群衆を率いてエジプトから出たモーセは、その少し前、エジプトの東のミディアンで、しゅうとイテロの羊を飼っていた。このモーセは、生まれたばかりの時、エジプトの王（ファラオ）による殺害計画の下で奇跡的に生き延びた。またエジプトから逃げ出たミディアンでも妻ツィポラと劇的に出会い、イテロの庇護を受けることができた。

このエジプトで40年、ミディアンで40年、あわせて80年間、生き延びてきたモーセが、しゅうとイテロの羊を連れてホレブの山にやって来たとき、ここに記されている。このホレブの山の上で、神様はモーセに出会ってくださった。神様はモーセの日常の中に来てくださった。このミディアンの荒野の奥（西端）にあるホレブを、モーセは「神の山」と記している。この山は、ミディアンを遊牧するモーセの折り返し地点であるとともに、モーセの人生の折り返し地点でもあった。このモーセが神様と出会われた「神の山」は、私たちが神様と出会う「神の教会」と似ている。ここは神様が私たちと出会うための舞台。

2. 神様との出会い (2-6)

ホレブの山で神様に出会われた神様は、どのようなお方なのかが3点教えられている

まず、神様は、私たちが立ち止まって注目しなければ、その存在、神様がおられることは分からないということが教えられている。神様の働きが分かるのは、私たちが立ち止まり、神様の働きがどこにあるのかと注目する時。この意味で、日曜日の教会の礼拝は大事。

次に、神様は、私たちの名前を呼んでくださるということが教えられている。人類の始祖アダムが罪を犯してから、神様は人に祝福を約束するため、その名前を呼んでくださる。「良い牧者」イエス・キリストは「羊」である私たちの名前を呼んでくださるので、私たちもイエス・キリストの名をお呼びして(呼び返して)、救われることができる。

また、神様は、罪に汚れた人間がそのままでは近づけない聖いお方であると共に、イエス・キリストの十字架の恵みをもって近づき、私たちを引き寄せてくださるお方であることが教えられている。このイエス・キリストの恵みを持って近づき、また引き寄せてくださる神様との出会いが、教会の礼拝にはある。ここで私たちは神様を賛美し、平安に満たされる。